

Scopus 2012年8月リリースのご案内

Scopus（スコパス）が2012年8月26日にバージョンアップされ、以下の変更および機能強化がありました。

1. アラートの設定条件（実行頻度および送信先メールアドレス数）の柔軟性が増しました。
2. Alerts メニューの表示方法が変更されました。
3. 電子メールアドレスのドメイン名によるリモートアクセスが可能になりました（Self-Managed Remote Access）。

1. アラートの設定条件（実行頻度および送信先メールアドレス数）の柔軟性が増しました。

アラートの実行頻度を細かく設定できるようになりました。また、送信先として複数のメールアドレスを指定できるようになりました。

バージョンアップ前のアラート設定画面

バージョンアップ後のアラート設定画面

- ① アラートの送信先として指定できる電子メールアドレスは1つに限られていました。
- ② アラートの実行頻度としては以下の4種類を指定することができました。

Monthly
Weekly
Daily
Inactive

- ① アラートの送信先として複数の電子メールアドレスを指定できるようになりました。セミコロン、コンマ、スペース、改行のいずれかで区切ってください。情報担当者が複数のエンドユーザーの代わりに設定することなどが可能になります。
- ① アラートの実行頻度を細かく指定できるようになりました。

Every day

Every week on Sunday
Every two weeks Monday
Tuesday
Thursday
Friday
Saturday

Every month on 1st
Every two months 2nd
Every three months 3rd
Every six months 4th
5th
....

2. Alerts メニューの表示方法が変更されました。

Alerts メニューの表示方法が変更され、使いやすくなりました。

バージョンアップ前の Alerts 画面

- ① アラートを削除するためには、各アラートの前のボックスにチェックを入れてから Delete リンクをクリックする 2 ステップが必要でした。
- ② アラートのステータス（アラートの実行頻度または Inactive）を変更するためには、Edit リンクをクリックし、いったんアラート設定画面に戻って変更する必要がありました。

バージョンアップ後の Alerts 画面

- ③ アラートを削除する方法が、✕ をクリックする 1 ステップに変更されました。
- ④ Status 欄が追加され、アラートのステータス（Active または Inactive）を簡単に切り替えることができるようになりました。

3. 電子メールアドレスのドメイン名によるリモートアクセスが可能になりました（Self-Managed Remote Access）。

エンドユーザーが「機関が指定したドメイン名の電子メールアドレスを所有していること」を条件に、自分でリモートアクセスを有効にすることができるようになりました。この機能はこれまで ScienceDirect でのみ利用できましたが、今回のバージョンアップで Scopus でも利用できるようになりました。

この機能の詳細は、下記の資料をご覧ください。

「ScienceDirect/Scopus - 電子メールアドレスのドメイン名によるリモートアクセス (Self-Managed Remote Access)」

→ http://japan.elsevier.com/products/sd/sd_scopus_self_managed_remote_access.pdf